

平成24年度第2回大分県協働推進会議 議事録

- 1 日時 平成25年3月1日(火) 14:00～15:30
- 2 場所 大分県消費生活・男女共同参画プラザ2階大会議室
- 3 出席者(委員) 岡田正彦委員、鴛海政明委員、三原正直委員、桑野恭子委員、
坪根邦子委員、大久保彰子委員、平川加奈江委員、
甲斐賢二委員、岩男涼子委員 9人
(オブザーバー) おおいたボランティア・NPOセンター
谷川真奈美 1人
(事務局) 山戸康弘県民生活・男女共同参画課長
県民活動支援室 中山和充室長、吉村一彦主査、安倍誠主任 4人
(説明補助者)
大分県職員研修所 松田康平主事
※大分県職員研修所地域政策スクールNPO班班長 1人

4 議事

- (1) NPO法人との協働について(職員研修実施状況等)
- (2) 新しい公共支援事業(めじろん共創応援基金)について
- (3) 平成25年度NPO関係事業予算要求概要について
- (4) その他

5 新任委員の紹介について

三原正直委員を紹介(王子野弘委員のご後任)

6 議事内容

- | | |
|-----------|--|
| 岡田会長 | 第2回の大分県協働推進会議の開催であり、早くも年度末を迎えるが、本協働推進会議の何人かの委員とは、NPO関連の事業などで、日頃からよくお会いする機会もあり、どんどん動いてるなという実感も持っている。
それでは、早速、議事の方に入らせていただきたい。この会議は公開となっている。本日の議事録署名人は鴛海委員、三原委員にお願いする。
議題(1) NPO法人との協働について、職員研修実施状況等について、事務局から説明を。 |
| 事務局(中山) | (説明) |
| 説明補助者(松田) | (説明) |
| 岡田会長 | 協働を上手く進めるためには、NPO側が受託ができるようなスキルなどを備えることも必要と思うが、今日の会議では、特に行政職員が理解を深め、上手く連携や協働を進めるという観点で、職員研修を主に説明いただいた。40分程度の講義から、長いもので6ヶ月にわたるものもあるということだが何回ぐらい集まって研究したのか。 |
| 説明補助者(松田) | 標準的には月当たり約2回のミーティングが設定されているが、時間が足 |

	<p>りず、実際にはその倍以上集まっている。自主的に集まる回数がすごく多く、徹夜もかなりしている。</p>
岡田会長	<p>この研修に関しては、相当な日数をかけて練り上げられたということのようであり、この研修についての質問であったり、それから他の研修でも、ご質問、ご意見を。</p> <p>また、後ほど、県職員を研修で実際に受入れている立ち場から、地域環境ネットワークの桑野委員とオブザーバー参加のふれあい囲碁ネットワーク大分の谷川さんにぜひご発言願いたい。</p>
鴛海委員	<p>様々な職場の職員がこの研修グループに参加しているとのことだが、メンバーにはNPOとの協働の経験者が多いのか。何人ぐらいいるのか。</p>
説明補助者（松田）	<p>当班は佐伯市職員1人を含む5人で構成されているが、現在協働事業を担当している土木建築部砂防課の職員1人を除いて、4人は未経験者である。その4人は、行政でも企業でもない、NPOというものに可能性を感じたという気持ちからスタートしている。</p>
鴛海委員	<p>予備知識がなくても、それはそれで純粋にやっていけばいいと思うが、ぜひこれを機会に、今度は実際にNPOと関わってみて、ギャップとかいろいろなことを自分で感じていくということが大事だと思う。せっかく6ヶ月も取り組んだのだから、さらに一步踏み出して、今度は現場に入っていくなど、実践につなげるような取り組みをすれば、さらに良いものができるのではないかな。がんばってほしい。</p>
岡田会長	<p>他の質問を。</p>
山戸課長	<p>県からの発言をお許し願いたい。</p>
岡田会長	<p>どうぞ。</p>
山戸課長	<p>前回の協働推進会議の際、県とNPOの協働を進めるときに、「往々にしてコスト削減というような観点でNPOを見ている。したがって、例えば単価の設定にしてもそうであり、間接経費を十分考慮しないような事例が多い。この辺りのことについてはいかがなものか」ということが話題となった。その会議の後、12月に協働推進庁内連絡会議を開催した際に、そのことにも言及し、必要な間接経費もしくは一般管理費を十分確保してほしいというよう趣旨のことを伝えた。先ほどの地域政策スクール松田班長の説明の中にもその辺りのことが示されていたが、当課としても、来年度消費生活相談業務を協働のモデル事業としてNPO法人に委託することを検討しているが、県庁内で予算を確保する際に間接経費の確保がなかなか難しい面もある。最近、間接経費の中身についてより厳格に精査するよう指導も受けている。この班の研究・提案内容を参考のうえ、実際の施策に反映できればと思う。</p>
平川委員	<p>私たちのNPO法人では、障がいを持った子どもさんの発育にあった教育や訓練を行っているが、当初日田市との協働がスタートした際は、当NPO法人にほとんどお任せの状態だった。市は会場の手配だけで、終了近くになって訓練メニューに関するリクエストがあった。そのような状況の中で、2年間協働した。先ほどの提案にあった「協働に関するルールづくり」の必要性を強く感じる。</p>
岡田会長	<p>県でも財政担当課と執行担当課の考え方の違いもあるとのこと、厳しい</p>

面もあると思うが、例えば、平川委員のご指摘にあった任せっきりという関係の協働については、違う関係・ルールによる協働関係を構築するという取組みが望まれるのではないかと思う。

それでは、NPO現場体験研修で県職員を受入れた桑野委員にご意見や感想などをお聞きしたい。

桑野委員

県が研修参加者向けの事前アンケートを実施しており、それを見るとほとんどNPOや協働に関する予備知識がなかったことにある意味驚いた。

部署や担当業務も様々で幅広く、業務に関係する分野のNPO法人で研修を受けるのも良いと思うが、当法人では、これまでまったく接点のなかった商工労働部の職員を受入れた。当法人にとって行政の新しい分野との接点となり、新しい事業のヒントなども浮かんだ。そういう意味でこのような機会はNPO法人側にとっても宝だと感じた。

研修実施についての今後の課題としては、2点申し上げたい。NPOとしては、2日間であるべく良い経験をしていただきたいと考え、どちらかと言えば、イベントを実施しているときなどに受け入れる傾向があるが、むしろ日常の地味な業務を経験してもらうのも良いかもしれない。また、研修後の参加者との意見交換の際に、研修日数を増やして欲しいという要望があった。研修そのものの日数を増やすことも良いかもしれないが、正規の研修はそれはそれとして、さらに研修を希望する場合、自主研修で参加する方法もあると思う。

岡田会長

オブザーバーの谷川さんにもお願いしたい。

谷川相談員

当法人も2人の職員を受入れた。職員によって意欲が違うという印象を持った。そういう意味からは、ひとつの同じメニューで受入れをするのは難しいのかもしれない。2人からは、当法人で研修を受けて良かったという感想をもらった。現場とオフィスというように2日間でメニューを切り替えたりしたが、十分な対応ができたかどうか不安な点もある。

NPO法人にとっては、いろいろな職員と知り合え広がりを持つことができるうえ、気づかなかった点への助言などももらえる良い機会となる。もっと多くの職員に参加いただき、さらに活発な研修となることを期待している。

桑野委員

提案にあったマニュアルやガイドラインの策定等について、今後実際にはどれをどのように進めていく予定なのか。

事務局（中山）

当方から職員研修所にこの研修テーマを提案した経緯もあり、会議や視察などにも参加・同行した。6ヵ月間に及ぶ長期の研修で、県外視察なども含め、熱意を持って研究した成果だと提案内容を受け止めている。研修が終わればそれで終わりということもあったりするが、当方としては、貴重な提案内容なので、できることから着手して実行していきたいと考えている。今の案としては、来年度、協働マニュアルから着手したい。

桑野委員

できれば、それらの進め方や案などについて、この協働推進会議でも示していただき、相談してもらいたい。

事務局（中山）

ぜひ、そうさせていただきたい。

岡田会長

提案のすべてをすぐに形にするというのは難しいと思うので、まずは入口となるマニュアルなどから着手いただき、協働推進会議としても今後継続し

	て研究する課題という位置づけにしていきたい。
谷川相談員	オブザーバーの立ち場ですが、発言をお許しお願いたい。
岡田会長	どうぞ。
谷川相談員	職員研修の話題に出ていたが、研修日数を増やして欲しいという要望があったとのことであった。実施面で日数を増やすことが可能であれば検討することも良いと思うが、NPO側としては、職員が自主的に活動参加しても良いのではないかと思う。NPOから歓迎されるのではないか。
事務局（中山）	研修日数を増やすと参加しにくくなるのではないかという心配もあるし、自主研修という形を制度に示すのも管理・把握上難点もある。職員が自主的に社会貢献活動に参加するのが好ましいのかもしれない。現に、当方の職員で研修参加した後に、そのNPO法人の会員になった者もいる。
岡田会長	議題（２）新しい公共支援事業、めじろん共創応援基金について、事務局から説明を。
事務局（中山）	（説明）
岡田会長	前回の会議で説明のあった大分県版の市民ファンドが、創設されたという説明だったが、出来て間もないわけで、様々な仕掛け、あまり意識をせず集まる仕組みと、意識したうえで集まる仕組みの両方のタイプが必要なのだと思う。あちらこちらで、寄附してもらえよう取組みを重ねていき、それを財源にして、毎年NPOを支える仕組みとして定着することが期待される。助言などを含めて、コメントいただければありがたい。
駕海委員	本基金の創設に取りかかった後、スピーディーに順調に出来上がったという印象を持っている。特に、基本財産の造成に対し、個人の寄附も多かったというのが良いことだと思う。さらに広がり徐々に浸透していくことが重要だと思う。また官民一体となってやっていくという方向性も大切。企業との冠助成事業は、助成希望団体の取りまとめや助成制度づくりを業務とするのだと思うが大変興味深い。がんばっていただきたい。
岡田会長	企業からの協力を得るためには、寄附金が何に使われているのかを明らかにすることが最も重要ではないか。
事務局（中山）	その点は基金を運営する財団も認識しているが、改めて意識を共有したい。そのような、企業が持たれている考え方などを本協働推進会議などを通じ、駕海委員や三原委員にご助言いただけるとありがたい。
三原委員	企業の立ち場から言えば、寄附金の使われ方に加え、その会社が寄附したことが、どのように広報されるかということも気になるところではないか。
事務局（中山）	その点も重要なご指摘であり、財団のホームページでお知らせしたり、広報するなど工夫や配慮が大切なのでしっかり取組むよう助言したい。
岡田委員	議題（３）平成２５年度NPO関係事業予算要求概要について、事務局から説明を。
事務局（中山）	（説明）
甲斐賢二委員	NPO総合支援体制強化事業には、当大分県ボランティア・市民活動センターに関する予算も入っているのか。
事務局（中山）	入っていない。貴センターに補助する予定の災害ボランティアセンター運営支援事業は別事業となる。

甲斐賢二委員	<p>私としては、ボランティアとNPOのかかわり具合が気になっている。高齢化などによりボランティアに足りない部分、逆に、NPOに足りない部分があるわけで、昨年の北部豪雨災害の際にもそうであったが、休日は個人ボランティアが多い一方で、平日は企業の登録ボランティアが多かった。その辺りの上手な役割分担が必要であり、災害ボランティアのような個人の社会貢献に対する参加・活動意欲をどう導くのか。支援の全体図を描くことも重要なので、当方（県社協）と県が連携するために、互いに語り合える場も必要だと思うが、どのように進めていくつもりか。</p>
事務局（中山）	<p>ボランティアとNPOの連携、つまりは貴センターと当方の連携は重要であり、その必要性は十分感じている。しかしながら、どの地域でどういう形で整えるのが好ましいのかなど、まだ煮詰まっていないと思う。貴センターと当方が運営するおおいたボランティア・NPOセンターが隣接して1年が経ち、連携の基盤はできたと思うので、来年度以降少々時間をかけながら検討していきたい。</p>
岡田会長	<p>ボランティアとNPOの関係については、ある部分では分かれて、ある部分では連携してというように中身によるところもあるかと思うので、互いに知り合える場として、来年度第1回の本協働推進会議の議事にするなどして、研究してみたいかと思う。</p>
甲斐委員	<p>今年度は第一歩として一般財団法人おおいた共創基金（めじろん共創応援基金）が創設され、25年度は、そのような新しい連携や対応の基盤を作る方策も含めて、おおいたボランティア・NPOセンターの運営を同財団に委託するという事だと思ふ。</p>
甲斐委員	<p>今日は協働推進会議ということで来年度の関係予算が示されているが、これまで、おおいたボランティア・NPOセンターは名称や場所を変えながら、毎年、NPOを公募で選び委託をしてきた。それを、随意契約ということだと思ふが、一般財団法人に委託するという方針には少々疑問を感じる。NPOの理解を得てやった方が良くないか。</p>
山戸課長	<p>一般財団法人おおいた共創基金は、県内NPOの資金的活動基盤強化と運営的基盤強化に取り組むことを目的として設置されており、今後は県と財団がそれぞれ別々に同じようなことにあたるのではなく、県から同財団法人にセンター運營業務等を委託のうえ連携して県内NPOの運営基盤強化を進め、NPO支援の総合化を進めたいと考えている。そのような理由から、同財団法人への委託が最適だと考えている。ただ、NPOへの説明はご指摘のとおりなので、きちんと対応していきたい。</p>
事務局（中山）	<p>現在、県議会で来年度予算案を審議中で、そちらとの均衡もあり、本日のご説明になったことをお詫び申し上げたい。甲斐委員のご指摘については、対応したいが、任意団体を入れれば相当数あるNPOの意見をお聞きするのが難しい面もある。県ホームページの活用なども検討するが、各ブロックからNPOというお立ち場でご参加いただいている本協働推進会議の委員から、本日ご意見をいただければ大変ありがたい。</p>
各委員	<p>（発言なし）</p>
岡田委員	<p>この場ではすぐに意見等が出てこないかもしれない。後でも何かお気づき</p>

事務局（中山）

の点などがあれば、継続して県でお受けするという事で理解いただければ
と思う。

後日でも結構なので、よろしくお願ひしたい。

平成25年3月1日

議事録署名委員 駕海 政明

議事録署名委員 三原 正直